

平工、最後の仕上げに猛練習

野球

東北大会に悲願かけ

第十四回秋季奥、高松戦で初優勝した地元平工商業高校野球部は、来たる三十九、三十の二日間、わだて青森市浪打球場(青森市営球場)で開かれる東北大会に出場するため、奥大会終了後遅日午後三時半から毎日まで高木順平主将を中心とした練習に汗を流している。同野球部の磯上監督、賀沢、谷良、鈴木の三コース以下十選手は、二十七日後一時六分立券の常磐線下り急行「みちのく」で青森市に上陸する。

②・同野球部は昭和三十一年の開部以来初の東北大会出場で、いままでは昭和三十三年に現常磐線

野球部のエース近藤を有して県大会決勝に進出したのが最高。このため磯上監督は三十六年度から三年計画でチーム編成(アリ)、二年目で県大会優勝を成し遂げた。新人メンバーの対戦成績は六戦六勝、敗戦で、チーム打球率は三割二分八厘、平均得点六・五点としギューハーのうち五人までが三割をマークしている好打者である。県大会でも一ノエース高沢正典投手(二年)、平井伸平(三年)、高木順平の打力がアラスとして強豪東京、双葉

東北大会出場選手は、投手

手 遠藤貴一、三澤手 高木順平

③・高木順平の打球率は六

年、平井伸平の打球率は五

